

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月23日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、多様な生徒に弾力的に対応可能な教育課程を編成する。 ②学習意欲の高い生徒に対して、個別に支援できる体制をめざす。 ③言語活動の活性化、協働的な学びを展開し確かな学力を育成する。 ④資格取得の推進に向けて工業科の指導体制を整備し、受検者数及び合格率の向上をめざす。	①学習指導要領に則った指導と評価の計画を作成するとともに、生徒の状況に即した授業展開を実施する。 ②基礎学力の定着や学び直し、進路実現に向けた外部サービスの活用も含めた指導について検討する。 ③一人一台端末を活用した授業展開を充実させる。 ④各種資格取得の受検・受講者数と合格者・取得者数の増加に向けて、資格の斡旋と取得意識の向上させる指導をしている。	①学習指導要領に則った指導と評価の計画を作成する。生徒の状況把握に努め、充実した授業展開を研究する。 ②基礎学力の確認、学び直し指導の検討、進路実現に向けた外部サービスの活用の充実を図る。 ③ICT機器を活用した授業研究と実践を行い、言語活動や協働的な学びを推進する。 ④資格取得に向けて、取得できる資格のPRや説明会を開催する。国家資格も含めた年間スケジュールに合わせ、取得のサポートを行う。	①学習指導要領の実施を受けて、生徒の状況に即した授業展開を実施できたか。 ②個別最適化された学習方法で個別の進路実現に外部サービスの活用ができたか。 ③ICT機器を活用した授業展開により、言語活動の充実や協働的な学びを推進できたか。 ④資格試験の受検・受講者数が増加したか。また、昨年度と比較して合格者・取得者数が増加したか。資格に絡めたジェニアマイスターが増加したか。	①学習指導要領の基本方針に則った指導と評価の計画を立て、生徒の実態に合わせた指導を実施することができた。 ②各教科で基礎学力の把握と実態合わせた指導計画を検討し実施した。 ③生徒個人の端末（iPad）を各授業内で活用を促しているところであるが、使用率はあまり向上していない。 ④資格取得について、校内実施の技能講習及び特別教育の6資格で235名、校外実施の2資格の技能講習では15名が取得した。また、危険物取扱者乙4種6名、国家資格電気工事士21名、土木施工管理技士1名が合格した。	①学習指導要領の確認と生徒状況の把握に努め、指導と評価の計画の見直しを継続していく。 ②入学者の基礎学力が低下している。教科間での情報共有をしながら基礎学力の定着を図っていく。外部サービスの導入について検討していく。 ③全生徒に個人端末を学校に持参させること、授業内で活用できる授業展開案等を検討することを継続していく。 ④技能講習及び特別教育の取得は6%減、国家資格については2割減だった。ジェニアマイスターは8割減で1名のみだった。次年度は取得者減にならないようにもっとPRをしたり、補習などサポートをしていく。	○基礎学力の定着は、卒業後に社会へ巣立つ生徒が多い助教を鑑みると、喫緊の課題である。外部サービスの導入して、実効性のある取組を期待したい。 ○生徒個人の端末の効果的な活用法を他校の参考事例等を参考にするなどして、積極的な検討をお願いしたい。 ○資格取得については専門高校の生命線であり、生徒の進路においても有効である。生徒への動機付けが最も重要ではないか。 ○生徒が端末（iPad）を持ってこないと進まないような授業、スマートフォンでは済まないような授業内容を検討する。	○生徒の基礎学力や希望進路（就職・進学・資格取得）など実態に即した指導と評価の実践ができている。 ○学力的な支援とは別に、内面的な支援を必要とする生徒の増加がみられる。 ○端末を利用した授業展開について研究・推進をしているが、端末の持参や学習用ネットワークへの接続における不具合などの課題がある。また、産業界・地域と連携、企業や大学と協力し実際の技術や知識を学べる場を作る。さらにインターンシップやデュアルシステムを推進し、キャリアアップと資格取得の意識向上を継続し教育していくことが必要である。	○学習支援と生活支援との連携強化を図り生徒の多様なニーズに即した指導と評価の研究に努めていく。 ○端末（iPad）を利用した授業展開（アプリの活用など）の推進、職員の研修、外部サービスの導入など検討。 ○国家資格や技能・特別教育のPRを継続的にを行い、工業高校特有の資格取得制度を利用することが、将来のキャリアアップに繋がることを生徒や保護者に示していく。国家資格や技能・特別講習をもっとPRしていかなければならない。工業高校特有の資格取得制度を利用することが将来のキャリアアップに繋がることを生徒や保護者に示していく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①基本的な生活習慣の確立と規範意識を醸成し、他社尊重しながら、自立した行動をとれる力の育成を目指す。 ②生徒の学校への帰属意識を醸成させるため、学校行事の改善及び部活動を活性化させる。	①学校全体で組織的に、基本的な生活習慣の定着と規範意識の醸成を図るための指導を行う。 ①SCやSSWの活用と外部機関と連携した教育相談体制を構築する。	①指導方針を共有し、学校行事・学年集会・HR活動、登下校時・昼休み時間を中心に学校全体で組織的に指導する。 ①SC・SSWの活用方法や外部機関との連携事例を全職員で共有し、積極的な活用を促し、一人ひとりに寄り添った適切な支援策を検討できるようにする。	①指導方針を共有して、学校行事・学年集会・HR活動、登下校時・昼休み時間を中心に学校全体で組織的に指導できたか。 ①SC・SSWの活用方法や外部機関との連携事例を全職員で共有できたか。SC・SSW・外部機関を活用して一人ひとりに寄り添った適切な支援策を検討できたか。	①生徒心得（服装・頭髪）を各HR・廊下・各科職員室に掲示して、共通理解のもと指導することができた。 毎朝始業時間前から昇降口で、積極的に声かけをして、遅刻をする生徒が減少した。 ①活用方法を積極的に発信・掲示、SCを活用して教員対象の研修会を実施した。SC相談回数75件、SSW相談回数41件、ケース会議1回、J7会議（管理職・教育相談担当・担任）2回開催し、一人ひとりに寄り添った適切な支援策を検討することができた。	①毎朝始業時間前の声かけ指導を継続して実施し、服装・遅刻・挨拶など基本的な生活習慣の定着を図る。 ①SC・SSWと協力しながら、生徒・保護者、教員に外部機関との連携や活用方法についての理解を深める内容の情報発信・掲示や研修会を実施する。	○服装・頭髪等については、生徒の意向や社会的背景を踏まえた指導をお願いしたい。 ○多様な課題を抱えた生徒へ対応するために、きめ細かな教育相談体制が構築できている。引き続き、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導をお願いする。 ○一方的な指導ではなく、生徒を意見を聞きながらより良い指導の方法を考えて欲しい。 ○SC・SSWによる先生方向けの研修を積極的に実施してはどうか。	○毎朝の声かけ指導は、基本的な生活習慣の定着について、生徒が意義を理解して、自らルールを守るよう支える指導としての効果があった。 ○学校全体で、ルールや規則を守らせる指導から、生徒自らルールや規則を守るよう支える指導を行う。 ○SC・SSW・外部機関と連携して、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな支援をすることができた。 ○個々の生徒の状況に対する受け止め方の違いで情報共有が遅くなり、支援が遅れることがあった。	○毎朝始業時間前の声かけ指導を継続して実施し、生徒に意義を問い掛け、生徒の行動変容を支える。 ○社会の変化に合わせた合理的なルールの見直し、生徒がルールの意義を理解し、自らルールを守るよう支える指導を行う。 ○今後もSC・SSWと協力しながら、連携方法や活用方法についての理解を深める。 ○学年会で、少しでも気になる生徒について、確実に情報共有を行う。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月23日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①キャリア教育実践プログラムに基づき、学校として体系的な進路指導を行い、生徒の進路実現をサポートする。 ②生徒の要望に対応した、進路先（大学、企業）の開拓を着実に進める。	①生徒の進路実現に向け、ICT機器などを活用しながら効果的な進路ガイダンスや説明会を行っていく。 ②各科の職員と密に連携し、関連企業の情報共有を積極的に図る。また進学においても担当者置き、情報の収集・共有を図る。	①handy 進路指導室をさらに活用し、求人票や進路情報を迅速に配信する体制を整える。 ②生徒のICT機器活用について定期的なフォローアップを行い情報提供の遅れを防ぐ。 ③各科の担当者と連携を密に取り、企業や大学から得た情報を遅滞なく共有する。	①生徒や教職員の handy 進路指導室の利用頻度が増加したか。 ②情報提供がどれだけ迅速に行われたか。また、定期的なフォローアップが行われたか。 ③企業や大学から得た情報が、どれだけ迅速に各科の担当者に共有されたか。	①求人票や進路情報を迅速に配信する体制については、handy 進路指導室により充実したものとなった。 ②ICT機器の活用については情報提供等を含め満足したものとなった。 ③各科と進路支援Gとの協働により、遅滞なく情報共有が行われた。	①今後のガイダンスや説明会等について三年間計画等を再確認していき、新たなプランが必要なら早急に検討し提案する。 ②進学相談や選択・決定などの時期やシステムについて、社会全般に合わせていける体制を考えていく。	○求人票等の情報が迅速に生徒・保護者へ配信できる体制は素晴らしい。 ○3年間を見通したキャリア教育実践プログラムに基づき、計画的な進路指導をお願いしたい。	○進路ガイダンスや説明会に関して、生徒の進路実現に向け、ICT機器などを活用しながら効果的な進路支援が行えた。 ○各職員との連携について各担当者等の協力により、多くの情報共有がとられ、就職・進学の充実がみられた。	○今後の説明会やガイダンスについては、最新の社会情勢を基に、できるだけ多くの新情報を提供できるように、handyの活用に関する知識や技術を充実させたい。 ○就職のみならず進学に関しても多くの大学・専門学校との意見交換などにより指定校の分野をさらに拡充していきたい。
4	地域等との協働	①地域と協働・連携することを通して、生徒のコミュニケーション能力を高め、豊かな人間性や他者と協働できる社会人基礎力を育む。	①部活動や各科による課題研究、清掃活動等で生徒が地域貢献に継続して積極的に関わる体制をつくる。 ②①のような活動をより多くの人に知ってもらえるように広報する。 ③生徒には、地域との協働・連携する意義を理解させ、共生及び安全に対する意識を持たせる。	①部活動や各科による課題研究を行う際には、地域との連携がはかるようなことができないか声掛けを行う。 ②学校ホームページやInstagramを通じて、積極的に広報する。特に在校生に対しても、Instagramを周知したい。 ③地域清掃活動を毎年同じ時期に行うことで、行事として定着させる。 ④近隣の学校などとの交流活動に多くの生徒がかかわるように、声掛けを行う。	①地域のイベント等に積極的に参加し、地域との協働・連携を図ることができたか。 ②学校ホームページやInstagramの更新頻度を上げることができたか。フォロー人数を増やすことができたか。 ③地域清掃活動を計画的に実施できたか。 ④地域との協働・連携を生徒に意識付けできたか。（卒業生と保護者に対する振り返りアンケート調査）	①④三笠公園で行われたイベントに軽音楽部が参加したり、グリーンボランティア部が近隣施設の緑化を支援したりなど、引き続き積極的に地域とかかわりを持つことができた。さらに、建設科の課題研究の看板を自治体に寄付するという、工業高校ならではの貢献ができた。 ②在校生・保護者向けにInstagramの案内を出したことで、フォロー人数を増やすことができた。 ③地域清掃を文化祭後の11～12月に位置付け、近隣自治会や学年の協力も得てスムーズに実施することができた。	①④部活動による地域連携を続けていくことに加え、今年度の建設科の例のように、工業高校としてもものづくり分野で地域連携ができないか模索したい。 ②地域と協働・連携することで、コミュニケーション能力や豊かな人間性がどの程度育まれたのか、1月以降実施する卒業予定者に対するアンケートを活用して見取る予定。 ③生徒の安全やプライバシーを守りつつ、InstagramなどのSNSを通じた広報活動をどのように行っていくかが課題。地域情報誌なども積極的に活用していきたい。	○普通科高校等で、「総合的な探究の時間」が導入され、素晴らしい取組も発表されている。今後も工業高校の特色を生かし、地域貢献をテーマとした課題研究を引き続き、継続していただきたい。 ○近年、厳しい志願状況が続いているが、SNSを通じた広報活動は益々、重要な媒体になると思われる。引き続き、工夫を重ねながら積極的な情報発信をお願いしたい。 ○地域と合同の防災訓練を実施してはどうか。 ○教員向けの研修を行った時よりさらに進化している。変化に対応していかなければならない。 ○HP等をAIに作らせる。 ○生徒にヒアリングを行い、SNSは何を使っているかを知ることが大事である。	○課題研究で作成した看板を寄付するなど、工業高校の特色を生かした地域貢献を行うことができた。 ○卒業予定者に対するアンケートでは、87%以上の生徒が中学生の時よりも地域社会に貢献しようと思うようになったと答えており、教育活動の成果が表れている。さらに地域とのかわりを多方面へ広げる。 ○本校の魅力と特色をさらに中学生と地域に発信していく必要がある。個人情報保護を徹底しつつ、SNSを通じた広報活動を活発に行うことで、本校に興味を持つ中学生を増やす。 ○AIを用いた授業や公務でのAI活用について、引き続き教職員対象の研修を実施する。	○工業科の生徒研究発表会や地区の探究的学習発表会などを通じて、優れた他校の取組を知り、情報発信を行う。 ○引き続き様々な分野で、生徒が地域貢献に積極的に関わる体制を整え、地域社会と協働・連携する意識を育成する。 ○SNSを通じた広報活動について、組織的な運営体制を整える。AIを活用しつつ、持続可能な形で広報活動をすすめる。 ○在校生へのヒアリングを通じ、広報媒体や内容を精査し、より効果的な広報活動を行う。
5	学校管理 学校運営	①業務の効率化を図り、職員の働き方改革を推進する。 ②日常的に、事故・不祥事防止に係る研修会を実施し、職員に当事者意識を持たせるように努める。 ③職員の学校運営への参画意識の向上を図る。	①ICTの利活用を推進し、職員の働き方改革につながる取組を行う。 ②事故防止会議を定期的に開催し、職員の事故防止についての意識向上を図る。 ③各種研修会や情報交換会などを活用し、職員の学校運営への参画意識向上を図る。	①ペーパーレス化やICT機器に係る設備の拡充を図り職員が負担なく活用ができる環境を整備する。 ②過去の事故・不祥事の事例を提示し職員一人ひとりが深く意識的に行動する。 ③全職員が当事者意識をもって発言・行動できるよう広く情報を共有できる環境を構築する。	①ペーパーレス化を推進でき、ICT機器に係る使用方法を理解できているか。 ②事故不祥事防止会議において深く議論できたか。 ③各種研修会、情報交換会において自分の意見を他人の考え方と比較し共有できたか。	①ペーパーレス化の推進と電子黒板等のICTの整備が進み、ハード面での基盤が整いつつある。 ②事故防止会議や研修の場は確保されている。危機管理マニュアルやガイドマップの存在は共有されている。 ③各職員会議や外部講師を招いた校内研修、グループ会議、各種委員会が定期的に開催された。	①新たなICTの導入にあたり設置場所が十分確保できなかったり、予備機や更新計画が不十分で、故障時に教育活動が止まるリスクがある。また、ハードの整備が進むとそれに伴いICT担当者への業務が増加した。 ②③事故防止会議が「他人事」になりがちで意識的な参加までは至っていない。	○残念ながら、教職員の不祥事に関する報道は後を絶たない。事故防止につながる効果的な研修をお願いしたい。 ○地震等の災害については、いつ起きてもおかしくない、予断を許さない状況にある。地域と連携した防災の取組を期待したい。 ○ICT機器の管理を生徒に任せる仕組み等を一緒に考えてみてはどうか。	○ICTの整備が進みペーパーレス化や電子黒板の導入により、情報共有のスピードアップと視覚的な教材提示の基盤が完成した。 ○マニュアルの整備、会議の定期開催など、組織として「業務基準」が定着してきた。	○事故防止会議が「他人事」にならないように「聞く会議」から、参加者に過去の事故や不祥事の事例を提示し「判断」を求めたり、間違いを探す脳を動かす「アウトプット型」へ切り替える。 ○ICT支援員の活用により教員が「教育活用」に専念できる体制の構築をめざす。